

原発、アトピー、ハンセン病

現代の問題点

撮り続け30年

神戸を拠点にドキュメンタリー映画を自主製作している団体「映画製作委員会」は10月1、2両日、神戸市中央区の県立美術館ミュージアムホールで1作目完成から30年の記念上映会を開く。「暮らしの中で見えてくる矛盾」を軸に撮り続け、両日は過去6作品の上映などを予定している。同委員会は「現在にもつながらる問題を取り上げており、ぜひ見に来てほしい」としている。

(山口昌平)

神戸の映画製作委

6作品の上映日時

1日

- ▽午前10時半「24000年の方舟」
- ▽同11時5分「奇妙な出来事アトピー」
- ▽午後1時「紙芝居がはじまるよ!」
- ▽同1時45分「風ものがたり」
- ▽同3時「フランドン農学校の尾崎さん」

2日

- ▽午前10時半「もういいかい〜ハンセン病と三つの法律」



同委員会
は、映画プロデューサー
を務める
鴫久森典妙
さん(67)(西宮市) 写真

「ら映画好き3人の仲間で1984年に結成した。核廃棄物の脅威を描いた米ドキュメンタリー映画に感銘したのでぎっつけ。賛成か反対かではなく、原発が何かを伝えるため、「自分たちの手で撮ろう」と、同じテーマで映画作りを開始した。ソ連(当時)のチェルノブイリ原発事故が起きたのと同じ86年の秋、核の廃棄物の行方を追った「24000年の方舟」(33分)を完成させた。91年の「奇妙な出来事アトピー」(46分)では、アトピー性皮膚炎を通して、戦後の高度経済成長の中で求めてきた豊かさを食や生活の視点から探り、95

①「風ものがたり」から⑥「24000年の方舟」から(映画製作委員会提供)



あすから上映会 最新作も

年の「風ものがたり」(58分)も食、農、環境をテーマに、福井県や大阪府南部の農家などの取り組みから生産者と消費者とのつながりの大切さを問いかけた。2012年の「もういいかい〜ハンセン病と三つの法律」は、国の隔離政策がとられたハンセン病の問題の歴史を取り上げた。5年がかりの143分の大作で、どんな病を抱えても平等に生きる権利があると訴えた。

当初、上映会は口コミで細々と開催。その収益でやると次作に取りかかったが、食や環境に対する意識の高まりや福島第一原発事故を受け、全国1000か所以上で観賞されるようになった。鴫久森さんは「映画を残せたのは財産だが、多くの人に出会い、多くのことを教えてもらったことが大きかった」と話す。

両日とも午前10時半から。2日午後2時から、最新作「最後の活動弁士 井上陽一の世界」のスペシャル上映と、井上さんの活弁ライブがある。料金は両日とも中学生以上500円(スペシャル上映は別に500円)。問い合わせは同委員会(078・3333・8690)。